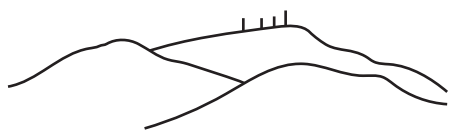


Youth Manna

2021/5/24 - 5/30



マルコ 1:35

さて、イエスは朝早く、まだ暗いうちに起きて寂しいところに出かけて行き、そこで祈っておられた。

2021/5/24(月)

Ⅰ 歴代誌 20 章

周りの国を巻き込んでイスラエルに戦いを仕掛けてきたアンモン人でしたが、その戦いもここで決着が着きます。彼らはイスラエルに使役されるようになりました。また、長い間苦しめられてきたペリシテとの戦いもひとまず終わりを告げます。こうして、イスラエルは周辺諸国からの脅威から解放され、ダビデの時代に平穏を得ました。

イスラエルはアンモン人やペリシテ人を滅ぼし尽くすことはしていません。地上をイスラエルの民だけが支配することを目指すのではなく、平穏な日々を求める戦いだったからです。

もし君の信仰生活の中で戦いを感じているところがあるなら、神様が治めてくださるように祈ろう！神様によって与えられる平穏を求めよう！

2021/5/25(火)

Ⅰ 歴代誌 21:1-17

人口調査は何度も聖書の中に出てきて、その行為自体が罪ではないけれど、王であるダビデが国の強さを確認し自分の栄光のためにした事が問題でした。神様は怒ってガドを遣わして3つの中から裁きを選ぶようにダビデに言い、ダビデは疫病を選びました。しかし実際に裁きの厳しさを目の当たりにしたダビデは自分の罪によって民が傷つくことに本当に心を痛めて責任を感じ神に祈り赦しを求めました(17) 神様はそのダビデの応答を予想していたかのように御使いの裁きを止めていました。(15)

神様は愛するがゆえに裁くことがありますが、そこにも実は憐れみがあります。私たちもダビデのように素直に悔い改めて神様のあわれみに頼りましょう！！

2021/5/26(水)

Ⅰ 歴代誌 21:18-30

ダビデの懇願に対し、主の祭壇を築かなければならないと、神からの指示が与えられた。ダビデはその指示に従い、先住のエブス人が暮らしていた土地を買い取った。この土地はダビデの土地となり、後に神殿建設に用いられることとなる。そしてダビデは全焼のささげ物と交わりのいけにえを捧げ、礼拝した。ここでのダビデに必要なことは、主に受け入れていただくこと(全焼のささげ物)、神との関わりを回復すること(交わりのいけにえ)だった。

罪の代償として何かを捧げるとか、罰を受け入れれば許されるというのではなく、主との結びつきこそが全ての要であることがわかる。自分の力ではなく、主との結びつきを求めよう！

2021/5/27(木)

Ⅰ 歴代誌 22 章

ダビデの願いであった神殿建設は神様に止められたわけだが、今日の箇所ではダビデはその準備を進めている。直接の建設ではなく、準備までは良いということなのだろう。ダビデによる建設が神様から禁じられたのは、ダビデが戦いで多くの血を流してきたからであり、平和と平穏の中で統治するソロモンこそふさわしいとの説明がなされている(8,9)。

神様はこの神殿建設を祝福されたが、後に私たち自身が神の宮であるという驚くべき真理が解き明かされる(1コリント 3:16)。神様が私たちに本当に願っていることは何なのか考えさせられるね。

考えよう！神様を求めつつ、私たちは何をしているだろうか？そして何をすべきなのだろうか？

花火の日

2021/5/28(金)

Ⅰ 歴代誌 23:1-23

▶新しいソロモン王のために、ダビデは準備をした。彼はまずレビ人の人数を調べ役割分担をするなど制度を整えた。

▶歴代誌は、ダビデの時代から約500年後に書かれた。すでにバビロン捕囚があり、ダビデのような王様はもういなかった。しかし捕囚からイスラエルに戻ってきた人々は、壊された神殿を立て直し、再び神の前に歩み始めようとしていた。

▶そんな時代に書かれた歴代誌が、500年も前のレビ人に注目する理由は、神殿再建がただ建物の話として終わるのではなく、神に仕える者の姿を通して主への礼拝の重要性を示そうとしたからだ。

▶私たちの生活は、神様を礼拝するものとなっているだろうか？ローマ 12:1-2

2021/5/29(土)

Ⅰ 歴代誌 23:24-32

レビ人は出エジプトの時代、幕屋を運ぶ役割だったから、住む場所が決まっていたからこれと言った仕事がないままだった。それをなおざりにせず、神様はダビデを通して新しい役割を与えてくださったんだ。それは、神の宮の奉仕を助けるということだった。実際のささげ物や儀式は祭司だけの仕事だったけど、その準備などの手助けをしていたんだね。

今の教会の礼拝でも、表に出るメッセージや賛美の奉仕だけでなく、音響やパワーポイント、カメラや会堂の掃除…たくさん支える奉仕があるよね。神様はいろんな形でお互いに尊敬をもって仕えることを教えてくれているんだ。

今集まれない中でも、礼拝のために仕えてくださってる人たちの存在を感謝しよう！そしてオンラインの形でもただ一人の神様にみんな心合わせて礼拝していこう！

2021/5/30(日)

詩篇 99 篇

この箇所では、作者が繰り返し「主は聖なる方」と告白しています。「聖」と訳されたヘブル語の本来の意味は「分離」という意味で、この世の他の何者とも違う方として区別され、ひれ伏すべきお方としての意味をもっています。聖とすることの反対は、この世のものや、人の力を神様と比べたり、並べて考えることです。

「主は王である」との告白からこの詩は始まっていますが、私たちも同じように「イエス様が私の王です」と一番に告白することのできる歩みとなっているのでしょうか。

自分の心の王座にあるものは何か、静まり考えてみよう。そして、朝毎に「イエス様を自分の王としてお迎えします」と祈って出ていこう！